年報の創刊によせて

福 田 ア ジ オ
FUKUTA Ajio

神奈川大学21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」は今年度に採択され，実際に研究事業が始動してから半年余りが経ちました．本プログラムは，20名の事業推進担当者と18名の共同研究員が4班に分かれて，研究を進めております．各班では研究計画に基づき世界各地にフィールドワークに出向き，また文献情報を集め，戻っては頻繁に研究会を開催して，その成果を検討しております．本年度は5年計画の初年度であり，これからの研究の方向を検討し確認するという面が強いのですが，そのなかでもすでに多くの新しい知見を獲得し，また情報を集積しております．それらについては速報としては年4回発行するニューズレターで広くお知らせすることにしておりますが，その研究蓄積については誌面の制約で十分に報告することはできません．そこで，1年間の研究成果をまとめて公開する媒体として『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』を刊行することにいたしました．これから毎年度末に1回年報を刊行して，主としてこのプログラムに参画している事業推進担当者，共同研究員そしてCOE研究員（PDおよびRA）の個別論考を収録していく方針です．

この年報に掲載した論考は，もちろん私たちのプログラムの研究成果であり，それを広く学界に向けて報告するものです．是非お読みいただき，忌憚のない批判をお寄せいただきたいと思います．私どもの課題は新鮮で，その可能性は大きいと自負しておりますが，掲載した論考は初年度ということもあり，多くの試行錯誤を示しております．なかには未熟な文章も含まれております．読者の皆さんの批判を謙虚に学び，研究水準を世界水準にまで高めていきたいと思っております．加えて年報は40名という大所帯のプログラムの内部で相互理解を深めるためのものでもあります．私たちの「人類文化研究のための非文字資料の体系化」は，その課題名称が示すように，非常に幅広く，学問的には歴史学，民俗学，文化人類学，地理学，建築学そして情報工学と，方法や対象が異なる分野を結集させて，拠点形成を行おうとするものです．私たちは計画を「学際・複合・新領域」に申請したのもそのためですし，採択に当たって期待されたのもその点だったと思います．年報の刊行によって，研究会での口頭発表だけでは分からない各分野の方法や理論枠組みを読み取ることができるようになります．年報を共通の素材にして議論を深め，所期の目標を達成する道筋を太く大きくしたいと思っております．

本プログラムは非文字資料の体系化という新しい研究内容を作り出すだけでなく，その情報発信の方法の開発も重要な課題としております．その情報発信の有力な媒体が博物館展示であることは言うまでもありません．本プログラムの展開過程で高度な博物館展示理論を構築することを目指しております．大学や研究機関の研究者に加えて各地の博物館学芸員とも連携し，プログラムを進めたいと考えておりますので，学芸員の皆さんにもこの年報を是非お読みいただき，ご意見をお寄せいただきたいと願っております．この年報を介して真に学際的・複合的な研究が進むことを夢見ています．

（拠点リーダー）